

【福島 義也牧師メッセージ（日本基督教団 にほんきりすときょうだん 河内長野みぎわ教会 本校講師）】



新入生、転編入生のみなさん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。私は、YMCA学院高校で宗教科の非常勤講師をさせていただいています、福島義也と申します。

本職は牧師なのですが、この学校で基督教の授業を担当しています。今日は、皆さんのご入学に際して、聖書を通して少しお話をさせていただこうと思っています。

まずは、今日の話のもとになる聖書の言葉を一か所読ませていただきます。

新約聖書のマタイによる福音書5章15節から16節というところです。

「ともし火をともして升ますの下に置く者はいない。燭台しょくだいの上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」

ここで、ともし火、つまりろうそくと、そのろうそくを置く燭台しょくだいが出てきました。この話はイエス様が人々にお話しになったことなのですが、当たり前のことをおっしゃっておられると思います。ろうそくに火をともしたら、燭台しょくだいの上に置くのが当然です。升の下や燭台しょくだいの下に隠してしまったら火をともした意味がありません。でもこれは、たとえ話なので、この当たり前の話を通してイエス様は何かを伝えようとしておられるのです。それが何か、これからお話ししたいと思っています。

まずは、ろうそくの光が何を表しているのか、ですが、それは一人ひとりに神様が与えてくださった特別なものです。才能と言ってもいいと思います。でも、基督教の言葉で神様が与えてくださった特別なものを「賜物たまもの」というふうに言います。その賜物たまものは一人ひとりに必ず与えられていて、それぞれ同じものは一つとしてありません。すべて違う賜物たまものなのです。その賜物たまものを表しているろうそくの光を燭台しょくだいの下に隠してはいけないと言われているのですが、では、その光を隠してしまうことのある燭台しょくだいとは、何を表しているのでしょうか。

ここでは3つ挙げてみたいと思います。

まず1つ目は、自分自身の心です。自分の中に神様が与えてくださった賜物たまものがあっても、自分で自分をダメだと思い込んでしまっていたら、その賜物たまものを表に出すことができ

なくなってしまう。「自分なんてダメな人間だ、生きている意味もないし、何の価値もない。」そんなふうに思ってしまう心は、自分の中に与えられている賜物^{たまもの}を隠してしまうことになるのです。

次に2つ目です。それは他人からの言葉です。「お前はダメだ、そんなんじゃ生きてても仕方ない、生きている価値なんてないじゃないか。」そんな心ない言葉を投げつけられると、せっかくの賜物^{たまもの}を表に出すことができずに、燭台^{しょくたい}で隠してしまうような状態になってしまいます。他人からの悪意によって潰^{つぶ}されてしまうのです。

そして、3つ目です。これは、私も自分の娘に対してやってしまったことがあるものです。それは、2つ目のように悪意ではなくて、むしろ愛情からくるものなのですが、こちらの思いを押し付けてしまうということです。これは親という立場の人がよく子どもに対してやってしまうことだと思います。「ちゃんと学校行きなさい、しっかり勉強しなさい、みんなと同じようにきちんとしなさい。」そんな言葉を親として言うことがあります。でも、そんな言葉も時にはろうそくの火を隠してしまう燭台^{しょくたい}になってしまうのです。

私の娘は中学1年生の3学期から不登校になりました。その後、全日制の高校になんとか入学はしたのですが、やはり学校に行けなくなって、高校1年生の7月で辞めることになりました。そんな娘に対して、最初の頃はどうしていいかわからず、親として焦りました。「学校に行きなさい」と何度も言いました。「なんで学校に行かないんだ」とも言いました。

でも、そんな私に焦らなくていいということを教えてくれたのは、YMCA学院高校の生徒たちでした。その生徒たちの多くも、全日制の高校を中途退学^{ちゅうとたいがく}して転学してきた経験を持っています。悩んだり、傷ついたり、自分で自分をダメだと思ったり、いろんな傷を心に負ったまま入学してくる生徒もたくさんいます。そんな生徒たちが、この学校で生活していく中で、少しずつ自分を受け入れ、前向きになって、自分らしさを見つけていく姿を私は見せてもらいました。みんなと同じじゃなくてもいい、多数派じゃなくてもいい、自分にしかできない何かがあることを信じて、それを見つけるために自分の道を歩んでいければいい、そんなことを生徒たちに教えてもらいました。

神様が与えてくれている賜物たまものは、一人一人違っていています。だからこそ、特別で尊とうといものなのです。人と同じじゃないから、特別なのです。そんな賜物たまものが何なのか、今はまだわからないかもしれません。でも、この学校で皆さんはそれを見つけていってほしいのです。人とは違う、自分にしかない、特別なものが必ず皆さんの中に与えられています。それを皆さんが見つげるために支えるということ、それが燭台しょくだいの本来の役割だと思ひます。その燭台しょくだいの役割を、この学校の先生たちは精一杯せいいつぱい果たそうと考えています。

皆さん一人一人に与えられている素晴らしい特別な賜物たまものが、いつの日か世界中を明るく照らす光として輝いていきますように、そんな希望をもって、この学校で一緒に歩んでいきましょう。